

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2195号 2014年01月20日（月曜日）

《 unsettled market 》

新しい年が明けてから約3週間。株高と円安の進行を見ていた多くの市場関係者の予測とは違って、マーケットは気迷いの中に見える。それにはいくつもの要因が指摘できる。

1. アベノミクスの斬新さが年明けとともに印象的にも陰る中で、「次の材料」探しが始まっているが、なかなかその材料が見つからない。「日銀の新たな緩和措置」は十分予測されているなかで今からの材料視は難しいし、アベノミクスの「第三の矢」を構成する強力な産業政策の発動も今すぐには見通せない
2. 先週末にルー米財務長官が講演後の質問に答える形で「過度な円安」に警告を發したことで裏打ちされたが、円安の進行には世界で依然として抵抗感がある。こうした中で、多くの市場関係者が見通したようには110円、さらには115円に円相場が直ぐ展開する兆しは見えない。対豪ドルのようにむしろ円高が進行している通貨もある
3. 12月の米雇用統計は天候など特殊要因であり経済そのものは着実に拡大しているにしても、ラガルド IMF 専務理事が先に警告したようにアメリカを含めて世界経済が「低インフレ症」の悪化、すなわちデフレの恐怖から抜けきっているわけではなく、世界各国でディスインフレ状態が続いている
4. そうした中で、企業業績は総体的に見れば伸びてはいるものの、日本を中心に先進国での企業の設備投資意欲は依然として低く、途上国での投資意欲は高いものの、その途上国は政治・金融情勢が不安定なところも多い

などの要因が考えられる。もっとも昨年の株高、円安の方向性があまりにも顕著であったため、その発射台から考えると今年という年が「過剰期待」の中で幕開けして、結果的に「期待外れ」になっている可能性もある。そういう意味では、このマーケット全体を覆う「気迷い感」はしばらく続くかも知れない。

アベノミクスに対する確信の微妙な揺らぎは、安倍政権の信頼性への疑念の台頭とも関連している。例えばこの日曜日に行われた辺野古を抱える名護市長選挙では、「移設反対」を明確に唱える現職・稲嶺進氏（68）（無＝共産・生活・社民推薦）が再選を果たした。

移設賛成の前自民党県議・末松文信氏（65）（無＝自民推薦）候補を前回の「得票差」（稲嶺市長が対立候補に対して持った票差）以上の差で破った。

無論そこには今回の選挙特有の要因が働いている。対立候補者自身の知名度・力量の問題もあるし、その急な態度変更によって多くの沖縄市民の怒りを買った仲井真知事の基地問題でのスタンスの問題もある。また移設推進派の候補者一本化が遅れた事実もある。しかし、選挙の最終版には石破・自民党幹事長まで乗り出して、政権が大きな力点を置き、さらにこれ見よがしに地元振興策で巨額資金の投入を約束する中での敗北は、「安倍政権の敗北」と見ることが可能である。

知事は移設先となる名護市辺野古沿岸部の埋め立て承認を変えないとしているし、政府は市長選の結果にかかわらず着工に向けた調査などを進める方針。しかし、市長が権限を持つ案件も多いだけに、今後の移転計画に様々な障害が生ずることは確かである。

《 a defeat for Abe in Okinawa 》

名護市の市長選挙は、「沖縄の基地が今後どうなるのか」という視点からアメリカでも関心が高かった。それがアメリカ政府も希望する普天間の施設の「辺野古移転推進」の方向で決まらなかった事は、安倍政権の政策遂行能力に対するアメリカの一抹の疑念に繋がる可能性が高い。アメリカにしてみれば、安倍首相の靖国参拝によって、「アジアの政治・軍事情勢が複雑化した」「参拝見送りのアメリカの意思が無視された」と見ている中で、新たな懸念材料となろう。

筆者が注目したのは、こうした状況の中で記者からの質問に答えるという形ながら、ルー米財務長官が久しぶりに円相場の問題について触れたことだ。それは従来アメリカの立場から大きく逸脱するものではなかったし、今の円相場のレベルそのものを問うものではないが、

「日本の長期成長、有利な為替相場への過剰な依存によっては可能でない」

「日本が国内の目的達成のため政策を実行しているかを注視」

とも述べている。ルー財務長官が久しぶりにここまで踏み込んだ発言をしたということ自体が重要である。これはTPP交渉の進展具合を睨んだものかも知れないし、アメリカが「失望」を表明した安倍総理の靖国参拝など日米関係全体を見据えたものかも知れない。いずれにせよ、世界の円相場を見る目の中には、依然として疑念と懸念があることが明らかになった。そういう意味では、今見られる円相場の気迷いが長引く可能性を示唆している。

もっとも一転して大幅な円高になる理由も、株価が大幅に反落すると予想する根拠もないように見える。日本の金利は十分に低いし、そうは言っても景気拡大を続けているアメリカの金利が一転して下がる可能性も少ない。ただ米債について言うと、10年債の利回りで

3%のレベルをなかなか超えないという事実があるだけだ。またアベノミクスへの「先行き期待」が残り、経済統計的には「delayed reaction」的に出てきている中では、早期の日本経済見限りには無理がある。

こうした「気迷い」の状況が晴れるとしたら、

1. 先月の雇用統計で一瞬先行き不安が横切ったアメリカの景況と金利の先高見通しが上方へ明確になる
2. 昨年春の「政策の一举投入」後には景気判断を引き上げるだけにとどまっている日銀の政策に、新たな要素（資産買い入れ額の対象範囲拡大、規模拡大など）が加わる
3. アメリカ以外でも今年は「先進国中心」と見られている中で日欧の経済に、もっと明確な景気拡大のシグナルがともる

などの必要があると思われる。そういう意味では、今後発表されるアメリカなどの経済指標は注目すべきだと思われる。

今週の主な予定は以下の通り。

0 1 月 2 0 日（月曜日）	中国 10～12 月期 GDP 中国 12 月工業生産高・小売売上高 中国 1～12 月期固定資産投資 12 月コンビニ売上高(16:00) 休場=ニューヨーク市場(キング牧師誕生日)
0 1 月 2 1 日（火曜日）	金融政策決定会合(～22) 12 月スーパー売上高 独 1 月 ZEW 景気予測指数
0 1 月 2 2 日（水曜日）	1 月 QUICK 短観 オーストラリア 10～12 月期消費者物価 12 月電力需要実績 金融政策決定会合の結果発表 黒田日銀総裁会見(15:30)
0 1 月 2 3 日（木曜日）	金融経済月報 HSBC の中国 1 月製造業 PMI 指数速報値 ユーロ圏 1 月 PMI 速報値 米新規失業保険申請件数 米 11 月 FHFA 住宅市場指数 米 12 月コンファレンスボード景気先行指数

0 1 月 2 4 日 (金曜日)

米 12 月中古住宅販売

米 12 月半導体製造装置 BB レシオ

通常国会召集

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。天気が良いのはいいのですが、とにかく寒いですね。夜など外に出ると今までの東京では感じたことのない寒さを感じる。とにかくあちこちで異常気象が報告されている。アメリカではカリフォルニアでは異常乾燥であるのに対して中西部では雪害と地域差が大きい。こんな状態が続くのが常態化するのだろうか、心配な冬です。

それにしても、ソチ五輪はもう来月ですか。相変わらずソチの近くではテロなどが続いています、それは日本の我々にはどうしようもない問題なので、「日本の選手には力を出し切って欲しいな」と思うだけですが、期待できる選手はいますよね。その代表は高梨さんでしょうか。まだ若い。今あまりにも調子が良くて「五輪では大丈夫かな」という心配がないわけではないが、まあ力があるから大丈夫でしょう。

その他にも期待できる選手がいるのですが、今の調子が良かったり悪かったり。私は個人的にはハーフパイプの青野選手に期待しているのですが、世界には、特にアメリカでは凄い選手がいる。彼等の一騎打ちを見て見たい気持ちがします。ま、一月も中旬を過ぎましたから、オリンピック前の国際大会は最後になってきている。選手はそろそろソチに移動する人も出てくるでしょう。期待したいものです。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》